

研究成果概要：

特別研究期間前半（2007年度秋学期）は、『第二言語における発音習得プロセスの実証的研究』（代表者：戸田貴子，平成16-17年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号16520357）の成果をふまえ、『日本語教育と音声』第1部「日本語教育と音声の関わり」（pp. 3-80）の執筆および編集を行った。第1部は4章から構成されており，各章の内容は次のとおりである。第一章「日本語音声の研究と教育における課題」，第二章「日本語学習者の音声上の問題点」，第三章「大人になってからでも発音の習得は可能か」，第四章「「発音の達人」とはどのような学習者か」。本書はくろしお出版から2008年3月10日に刊行された。また、『多様化する言語習得環境とこれからの日本語教育』の第3章第2節「混合環境における日本語習得一音声の習得」（pp. 149-167）の執筆を担当した。本書はスリーエーネットワークから2008年5月12日に刊行された。

特別研究期間後半（2008年度春学期）は、『音声習得ストラテジーと発音学習システムに関する実証的研究』（代表者：戸田貴子，平成18年度-20年度科学研究費補助金基盤研究(B)課題番号18320094）の完成年度を迎え，シャドーイングDVD教材『日本語でシャドーイング』の制作を行った。本教材は，PartI 解説編「シャドーイングとは」，PartII ナレーション編「東京の魅力発見」，PartIII 会話編「ベストフレンド」の3部から構成されている。また，字幕あり（日本語・韓国語・中国語・英語）・字幕なしの選択機能も搭載されている。本教材は，教材の共有化を目的としてインターネットで公開している（<http://www.gsja1.jp/toda>）。

2008年6月には早稲田大学遠隔教育センターと共同で，拙著『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』（戸田2004）の内容に準拠したオンデマンドコンテンツの作成を開始した。早稲田キャンパス内のスタジオで，全10回の講義と選択式の母語別発音レッスン3回分を収録した。本講座のインターフェイスは，教師（動画），スライド（パワーポイント），目次（ハイパーテキスト），発音練習ボタン（音声ファイル），字幕から構成されている。学習者が教師の講義を聞き，日本語の発音の特徴を学習しつつ，聞き取りと発音の両側面から練習を行うことができるように工夫されている。本講座は日本語教育研究科および日本語教育研究センター設置の講座において，CourseNaviを用いて提供している。また，海外の協定校においても配信されており，受講者数は次のとおりである。北京大学：110名，清華大学：80名，人民大学：100名。また，今後は韓国サイバー大学でも配信されることが決定している。インターネットで配信する発音授業の海外への展開が可能になれば，オンデマンドの利点を生かして，外国語学習環境においても時間と場所を問わず日本語学習者に発音学習機会が提供できると考えられる。

また，早稲田大学遠隔教育センターと株式会社アドバンスメディアとの産学共同で，音声認識技術AmiVoiceを活用した日本語発音練習用ソフトウェアの開発も行った。

なお，2007年12月から2008年1月までシドニー大学に滞在し，2008年7月から2008年8月までオックスフォード大学ウォルフソンカレッジに交換研究員として滞在した。

研究業績：

戸田貴子編著（2008）『日本語教育と音声』，くろしお出版

戸田貴子（2008）『多様化する言語習得環境とこれからの日本語教育』第3章第2節「混合環境における日本語習得一音声の習得」坂本正・長友和彦・畑佐由紀子・小柳かおる・森山新・村上京子編，スリーエーネットワーク

研究発表：

- 戸田貴子・劉佳琦（2007）「日本語教育とシャドーイング」2007年北京日本学研究センター国際シンポジウム，北京外国語大学（2007/10/21）
- 戸田貴子（2008）「シャドーイング教材の構成に関する一考察」第8回日本語教育と音声研究会，早稲田大学（2008/3/13）
- 戸田貴子（2008）「インターネットを利用したシャドーイング教材の開発」日本語教育国際大会，釜山外国語大学（2008/7/12）
- 戸田貴子（2008）「シャドーイング教材の字幕に関する一考察」チャナッカレ大学，第13回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム（2008/8/28）